

1 今年度学校経営計画の実現状況の概要

学校経営計画において、「中期的目標と方策」として8項目を示し、それぞれについて、「今年度の目標と方策」として、(1)教育活動の目標と方策、(2)重点目標と方策、という2つの視点で、より具体的に示し、学校経営を行った。その実現状況と学校評価の結果について以下に概要を述べ、数値目標の実現状況を報告する。

[取組状況の概要]

(1) 学習指導の充実

外部試験や定期テストの結果等、学習の成果を確認できる様々なデータを集積、分析し、生徒が身に付けた学習成果を教員が的確に捉えられるよう、学力分析会を設定、実施した。その結果を受けて、教科ごとに指導の改善を図り、生徒自身に自らの学びを振り返らせ、次の学びの改善につなげられるよう取り組んだ。また、観点別学習状況の評価の質を高め、基準の統一化を図るための研修会を実施した。全教員が相互授業参観、授業研究会を通じて、ICTを活用した授業づくりを積極的に行い、いつでもオンライン授業が行える体制を構築するとともに、校内のデジタル化を推進した。持続可能な社会づくりの視点で、社会における様々な問題について、「総合的な探究の時間」や「人間と社会」において取り組んだ。高大連携校である明海大学の教授からの助言を受けながら指導計画を立て、生徒自らが課題を設定し、解決に向けて情報を収集・整理・分析し、周囲の人と意見交換・協働しながら課題解決に取り組んだ。学力向上研究校として、朝学習の充実、放課後や土日の補習・講習の「竹台塾」、「まな部」の充実に取り組んだ。学習支援員による個別学習指導教室である「竹台塾」では、英語検定等の資格取得を通じて、学力向上に取り組み、生徒は欠席することなく、意欲的に受講した。在京外国人生徒への日本語指導については、外部の専門家である経験豊富な日本語指導員を複数講師として任用し、指導の充実を図るとともに、月曜日の7時間目、8時間目に学校設定科目「日本語Ⅰ」を設置し、単位の取得を目標にして日本語能力の充実に取り組んだ。また、在京外国人生徒が一定数在籍することから、学年やクラス、部活動といった集団を通じて、互いを尊重し合う豊かな人間関係を築き、異なる文化や習慣、考え方を尊重し、多様な人々との話し合いの中で合意形成を図ったり、協力したりすることができるグローバル人材の育成に努めた。

(2) 進路指導の充実

生徒が自らの生き方を考え、将来に対する目的意識を持ち、自らの意志と責任で進路を選択決定する能力・態度を身に付けられるよう、学校の教育活動全体を通じ、計画的、組織的な進路指導を行い、キャリア教育を推進した。生徒への進路指導を徹底するため、Classiを活用し、生徒、保護者と学校間での双方向の連絡体制を構築して緊密な連携を図り、生徒、保護者から高い評価を得た。「総合的な探究の時間」では、生徒が課題を見つけ、分析し、解決策を考え、解決していく力を育成することに繰り返し取り組み、一連の過程を理解し、自分の言葉で発表できる力の育成を目指した。そして、取り組みの中で、生徒が学びの成果を実感し、財産として蓄積していけるよう、組織的、一元的な指導を行った。今年度も、進路指導部、学年が、第一希望進路の実現と、卒業生全員の進路先決定を目標に取り組み、第一希望進路実現率約80%、進路決定率約98%という結果となった。卒業生へのアンケートからも3年間を見通した、計画的な進路指導が、生徒の卒業後の進路に対する意識を高め、進路未決定者を減少させることから、引き続き組織的な指導を継続していきたい。平成29年1月に明海大学と高大連携協定を結び、それ以降8年に亘り、大学の教育内容に直接触れることで、生徒の視野が広がり、進路に対する意識及び学習意欲を高めることができている。特に教職特別プログラムは、教職志望の生徒に教職の魅力や、大学での教職課程の学びについて理解を深める内容で、参加した生徒は、教職を強く志望し、進学している。今年度、帝

京科学大学とも高大連携協定を締結したことから、今後も大学教育・高等学校教育相互の活性化を図れるよう、信頼関係にもとづいた高大連携を推進したい。

(3) 生活指導の充実

一昨年度、新型コロナウイルス感染症に対応した生徒の登校パターンを変えることができず遅刻者が増加したため、昨年度は、生徒の意識改革に努め、年度当初より厳しく遅刻指導を行い、生徒の行動改革に取り組んだが、同様の遅刻者数となってしまった。そのため、今年度は2年間の遅刻の状況を分析し、次のような対策を行った。①全教員による登校指導、②担任による生活習慣を改善するための個別指導、保護者と連携した家を出る時間の指導、③教科と連携した朝学習の内容の充実と参加意欲の向上。これらを継続して実施することで、今年度は遅刻者数を減少させることができた。頭髪・服装指導は、全教員による、校門での指導、授業開始時の授業担当者による指導を毎日確実に実施した。しかし、例年2年生後半から3年生に進級するに従い、スカートを折り上げる生徒が増える傾向がみられるが、今年度の1年生は、そうした生徒はほとんどなく、今後の竹台高スタンダードとなると期待している。全教員による粘り強い指導が少しずつではあるが成果となって表れている。学校はルールを守ることの大切さを学ぶ場であることを一人ひとりの生徒がしっかりと認識し、言われるから直すのではなく、自ら自分を律し、行動することができるよう、生徒の自覚を促す丁寧で粘り強い指導を行っていく。いじめの未然防止については、教員間の組織体制を強化し、トラブルに迅速に丁寧に対応できるよう、各教員がセンサーの感度を高めて、生徒の発する微弱なSOSであっても、それをしっかりと感じ取り、いじめ等の問題の早期発見、早期対応につながるようにしている。ヘルメットの着用については、自転車通学の許可条件とし、繰り返し生徒、保護者に自転車登校時のヘルメット着用を指導した結果、1年生では、ほぼ100%の着用率となった。さらに、荒川警察署、荒川区役所と連携し、朝の登校指導時に繰り返し警察官や区担当者に直接指導していただき、生徒の意識向上に取り組んだ。来年度についても本校の生活指導において大切にしてきた「規律ある自由」を生徒に十分に理解させ、生徒が自律的、自発的に自らの行動をコントロールできるよう、指導の充実を図る。

(4) 募集・広報活動の充実

アンケートによると、「校舎が新しい」、「施設が充実している」、「通いやすい」ことを志望動機として、本校の多くの生徒は、竹台高校を第一志望として入学している。そのため、学校のルールを守り、落ち着いて前向きに学校生活に取り組む生徒が多い。こうした状況を学校行事や教育活動の様子として具体的かつタイムリーに「竹台通信」やホームページ等で積極的に発信し、安心、安全で、校訓の精神である「共に学び 共に進む」を実践する学校であることを強くアピールしている。また、全教員での募集広報活動を実施し、新入生アンケートや学校見学会や学校説明会のアンケートを分析し、その結果をもとに、総務部を中心に、組織的、計画的、戦略的な募集活動を行った。その結果、推薦入試では3.81倍と過去最高の倍率になるなど、入学者選抜において、高い応募倍率を維持することができた。今後とも他校にはない「本校の特色」を明確に提示し、3年間で学力を高め、進路希望を実現する教育を実現するために、生徒、保護者、教員が全力で取り組んでいることを学校説明等で強くアピールしたい。そして、多くの中学生とその保護者が本校への入学を強く志望するよう、より効果的な募集対策を行う。

(5) 健康・安全の充実

インフルエンザや新型コロナウイルス感染症等に様々な感染症に感染する生徒がおり、東京都において感染症の流行について警報・注意報が発令された場合は、特に生徒への注意喚起を行い、校内においてはもちろん、自宅や外出先等の日常生活において、「自分を守る、家族を守る、友達を守る」ための感染症対策について指導を行った。今も多くの生徒が状況に応じてマスク、手洗い、消毒等の感染症対策を継続し、学級閉鎖等はなく、感染の拡大を防止している。3年連続で春から夏、秋にかけて異常な暑さとなっているため、学校におい

て、熱中症予防情報の全教員での共有、多数のWGBT測定機器を購入し、それぞれの活動場所で暑さ指数を観測しながら、指針に従い、冷房設備のある場所で活動させる等、熱中症の危険を回避する行動を徹底した。特に6月初めに実施した体育祭は、冷房を完備した東京武道館の室内で実施した。当日は雨であったが、その影響もなく、また、湿度が高かったが、体調を崩す生徒は一人も出なかった。また、保護者からの要望が出ていた観客席での体育祭の参観を実現することができた。スクールカウンセラーが2名体制となったが、友人関係や家族関係など、様々な問題を抱え、悩みを相談する生徒が増え続けており、担任や養護教諭を中心に全教員で生徒に寄り添い、スクールカウンセラーと連携しながら、生徒たちにとって学校が安心、安全な居場所となるように取り組んだ。また、全教員間での生徒情報の共有のため、全校でのケース会議、研修を行い、個々の教員の指導力を高める体制づくりを推進した。校内において、生徒が安心して心身を休め、悩みを相談することができる居場所づくりは、喫緊の課題であり、SOSの出し方についての指導を行うとともに、課題解決に取り組んでいる。災害から「自分を守る、家族を守る、友人を守る」ために、荒川区、消防署、水道局、町会と連携した防災訓練を実施し、災害に対する体験的、実践的な防災教育による生徒の防災意識の向上を図った。

(6) 特別活動・部活動

今年度は、体育祭・文化祭等すべての行事を計画どおり、すべて実施することができた。体育祭・文化祭ともに、生徒が運営の主体となり、持てる力を最大限に発揮し、成功を収めることができた。体育祭は、6月初めに東京武道館で実施した。例年、この時期の実施でも屋外では、熱中症の危険が生じ、体調を崩す生徒が多数出ていたが、今年度は冷房のある室内だったため、問題なく実施できた。また、文化祭は、一般公開は行わず、保護者、中学生、卒業生にのみ人数を制限した事前予約制で実施し、およそ1850名が来校した。特に今年度は学校周辺の広い地域の各家庭に、入場券を配布したことで、多くの近隣の方々が、家族で来校してくれた。アンケートには、初めて校内に入り楽しませてもらいましたと感想が書かれており、学校の周りにできた新築マンションの住民の方とも交流することができた。特別活動は、引き続き校内デジタル化を推進しながら、様々な場面での内容の充実に、生徒と教職員が一体となって取り組み、多くの場面で生徒の可能性を感じることができた。部活動は学校と地域との連携・協働による活動への移行という流れを受け、多くの部で部活動指導員が指導に関わっている。また、「TOKYO ACTIVE PLAN for students」が目指す、自ら体力を高めていく習慣を身に付け、生涯にわたって心身の健康を保持増進することができる資質・能力の育成に取り組んだ。生徒が意欲的に部活動を継続していくよう指導することで、生徒が、やらされるのではなく、自分で考え行動するようになり、活発に活動する部が増えた。新たに同好会ができたたり、部員数が増加したり、よい成績を残したりと今後の成果に期待している。

(7) 地域連携の充実

学校開放でのテニスコートの貸し出しは、実施できなかった。テニスコートに接して、マンションや一軒家が周りに立ち並んでおり、テニスコートの防球ネットを超えてボールが出てしまい、近隣の方々の迷惑をかけていたため、改良工事で、テニスコートの周りの防球ネットを可能な限り高くする工事を行なったが、工事が完成してすぐに、高く設置したフェンスを越えてボールが近隣の敷地に入ってしまう、テニスコートの使用方法の再検討が必要となった。住宅街の中にある学校として、いかに近隣の方々に理解をいただきながら、必要な教育活動を行っていくかが常に問われている。地域の行事にダンス部が参加し、好評を得た。今後も、生徒の安全、安心に十分配慮したうえで、地域との連携を推進していきたい。また、昨年度から「人間と社会」に位置付けた地域清掃活動について、今年度も東日暮里5丁目町会の方々と生徒と一緒に近隣地区の清掃活動を行い、地域貢献することの大切さを学んだ。

(8) 学校経営・組織体制の充実

主幹会議は、主幹教諭のOJTとして位置付け、毎週1回、定期的を実施し、学校課題について、有益な意見交換、情報交換を行い、解決策についての検討を行った。それにより、各主幹教諭は自己の役割をしっかりと認識し、統一的、組織的な学校運営に力を尽くした。企画調整会議は、様々な視点で、忌憚なく意見交換がなされ、各分掌、各学年主任間の横の連携が密に行われたことで、迅速で着実な対応が行われた。その結果、会議時間の短縮につながった。さらに、ペーパーレス化を強力に推進し、職員会議など、全教員が集まる場合は、資料の印刷をやめ、TAIMS 端末を利用して内容を確認し、会議を行った。また、保護者からの要望を受け、保護者向けの通知を印刷物だけではなく、Classi を使い連絡し、ペーパーレス化に取り組んだ。学校運営連絡協議会は、本校において3回実施し、協議委員からは、今後の竹台高校について様々な意見をいただくことができた。教職員のライフ・ワーク・バランスの実現を目指し、業務の効率化、仕事量の減少に努め、年次有給休暇の計画的な取得、時間外労働、休日労働の減少を目標として掲げ、学校における働き方改革を強力に推進した。服務事故の防止については、あらゆる機会に応じて指導を徹底した。

2 数値目標の実現状況と自己評価

※A＝十分達成 B＝概ね達成 C＝達成できなかった

() 内数値は前年度実績 【 】 内数値は今年度結果

数値目標としては、達成できたもの、達成できなかった項目がある。今年度も、数値目標を指標として、計画的、組織的な教育活動を実施した。現段階では、評語はCとせざるをえない項目もあるが、目標実現、課題解決に継続して取り組んでいることから、学校経営上は、全体的に安定している。

《学習面》

- ・自習室の開室 常時開室 (学校行事・考査等期間以外常時開室)
【学校行事・考査等期間以外常時開設】 A
- ・まな部の実施
各学年7回以上 (1学年7回 2学年6回 3学年5回 漢検対策15回)
【 1学年1回 2学年1回 3学年15回 】 C
- ・長期休業中講習 開校講座 20 延べ200時間以上 300名以上
(教科 26講座 198時間 164名、日本語教室集中講座 10時間 153名参加)
【 教科 23講座 123時間 277名、日本語教室集中講座 18時間 41名参加 】 B
- ・生徒による授業評価における肯定的評価 85%以上 (82.0%)
【 90% 】 A
- ・図書館貸出冊数 1700冊以上 (1560冊)
【 1366冊 】 C
- ・資格取得準2級以上 30名以上
(41名：英検 36名 漢検：7名)
【 38名：英検 23名 漢検 5名 数検 2名 情報処理技能検定 8名 】 A

《進路指導面》

- ・4年制大学進学率 50% (49.3%)
【 45% 】 C
- ・日東駒専以上現役合格 15名 (8名)
【 15名 】 B
- ・就職内定率 100% (100%)
【 100% 】 A
- ・進路未決定者 6%未満 (5.7%)
【 2% 】 A

《生活指導面》

- ・年間遅刻 30 日以上
1 年生 5%以下 (2%)
【 2% 】 A
2 学年 5%以下 (28%)
【 18% 】 C
3 学年 5%以下 (20%)
【 28% 】 C
- ・部活動加入率 1 学年
80% (80%)
【 81% 】 B
- ・学校評価アンケート 地域の否定的評価 15%未満 (50%)
【 10.9% 】 A
- ・体罰
0 件 (0 件)
【 0 件 】 A

《募集・広報活動面》

- ・ホームページ年間更新回数 250 回以上 (260 回)
【 322 回 】 A
- ・学校説明会 5 回 (5 回 : 2778 名)
【 5 回 : 3312 名 】 A
- ・個別相談会 2 回 (2 回 : 103 名)
【 2 回 : 156 名 】 A
- ・中学校訪問 140 校 (137 校)
【 180 校 】 A
- ・塾訪問 50 校 (46 校)
【 58 校 】 A
- ・中進対第 1 志望調査 1.60 (1.64)
【 1.38 】 B
- ・入学者選抜応募倍率 (学力検査) 1.60 (1.47)
【 1.39 】 B
- ・文化祭来校者数 1700 名
(1700 名 : 中学生 500 名、保護者 700 名、卒業生 500 名 : 人数制限実施)
【1850 名 : 中学生 650 名、保護者 1000 名、卒業生 100 名、近隣 100 名 : 人数制限実施】 A
- ・「竹台通信」発行 12 回 (12 回)
【 12 回 】 A
- ・相互授業見学各学期 1 回以上 100% (100%)
【 100% 】 A

《地域連携面》

- ・施設開放 10 団体以上 10 日 (0 団体 0 日 : 施設工事のため)
【 0 団体 0 日 : 使用方法検討中のため 】 C

《学校運営・組織体制面》

- ・主幹会議 25 回以上 (25 回 企画調整会議後に実施)
【 30 回 】 A
- ・電子起案の推進 99%以上 (99%)
【 99% 】 A
- ・センター契約 50% (48%)
【 50% 】 B
- ・定時外在校時間 80 時間越 0 名 (2 名)
【 4 名 】 C
- ・月 1 日以上の定時退庁 100% (100%)
【 100% 】 A

・男性教職員育児休業取得率	100%以上（100%）
	【 100% 】 A

3 次年度以降の課題と対応策

(1) 学習指導

基礎・基本の学習内容の着実な定着を進め、進路希望の実現に必要な学力を確実に身に付けさせるために、教科ごとに定期試験や外部模試の結果を分析し、その結果をもとに、生徒に必要な学習内容を明確にし、弱点を克服させ、良い点をさらに伸ばす授業づくりを行うようにする。そのために教育課程委員会や教科会を定期的に開催し、教科内で指導内容や指導方法の共有化を進め、さらに、他教科との教科横断的な連携を深め、組織的な学習指導体制を構築する。話し合い活動やICT機器を積極的に授業に取り入れ、生徒の学習意欲を高めるとともに、探究活動を通じて、課題を見つけ、自ら考え、解決する力の育成を図る。朝学習を教科と連携して計画、実施し、学習習慣の定着や学習意欲の向上を図るための重要な時間として毎日取り組ませる。始業前・放課後の自習室の開放を継続する。放課後や週休日に、外部人材を学習指導員として配置した「竹台塾」を開講し、一人一人に適した指導を行い、生徒の学力向上に取り組む。また、生徒間に定着した「まな部」についても、週休日等の学習支援として、生徒の主体的な学習を支援する。本校は、在京外国人生徒対象の募集を実施していることから、日本語指導が必要な生徒が一定数在籍している。そのため、日本語能力の育成が重要課題であり、放課後の7時間目、8時間目に学校設定科目「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」を設置し、外部の経験豊富な日本語指導担当教員を講師として配置し、日本語指導を行う。さらに、共通語としての英語を重視し、1年生が「TOKYO GLOBAL GATEWAY」に参加するとともに、来年度からは、全ての生徒が英語検定試験を受験し、英語力の向上を目指す等、グローバル人材の育成に取り組む。

(2) 進路指導

生徒が自己の在り方生き方を考え、主体的に進路選択することができるよう、入学時から系統的かつ組織的な指導を、引き続き意図的・計画的に実施する。各学年と進路部がこれまで取り組んできた取り組みを継続・強化するとともに、常に生徒・保護者と課題意識を共有しながら、それぞれの生徒に対応したキャリア教育を行い、全体計画に沿って組織的に実施する。模試・適性検査・個別面談等を実施し、個々の生徒に寄り添い、保護者との連携を密に行いながら、的確な指導・助言を行う。必要な進路情報を適切に提示できるよう、パソコン等の情報機器を最大限に活用しながら、生徒が主体的に進路を考えられるようにし、自ら進路目標を設定し、選んだ第一希望進路を、易きに流れず努力し続ける進路指導を引き続き継続する。高大連携校である明海大学、帝京科学大学と連携し、大学の教育内容に生徒を直接触れさせることで、生徒の視野を広げ、進路に対する意識を高め、学習意欲を引き出すことを通じて、今後も大学教育・高等学校教育相互の活性化を図る。

(3) 生活指導

全校集会・学年集会・ホームルーム等を活用し、本校のルールやマナーについて繰り返し指導し、生徒が自ら主体的にルールやマナーを守ることができるようにする。本校が大切にしてきた「規律ある自由」について、生徒の理解を深め、自由とはルールやマナーを守ったうえで、享受できる大切なものであり、高校は社会に出る前に、ルールやマナーを守ることの大切さを学ぶ場であることを確実に理解させる。自由の大切さを理解し、高い規範意識をもち、自らの行動をしっかりと制御できる社会人となるよう生徒を育成する。今年度、遅刻とともに、身だしなみ指導を受ける生徒が増加した。遅刻・身だしなみ等の規範意識を高めるために行った様々な対策について、常にその成果を検討し、調整を加えながら、より効果的な指導方法を実施していく組織的な体制づくりを推進する。生徒会活動、部活動においては、生徒が主体的に活動する自己啓発活動の場として、来年度も多く部の活動指導員等の地域の外部人材を活用しながら、生徒の心と体の調和した成長を促す。生徒の様子の変化にも反応する高い感度のアンテナを全ての教員が、生徒の様子の変化を感じ取るアン

テナの感度を常に高く維持するための教員研修を行うとともに、いじめに関する授業を行い、いじめの未然防止に取り組む。

(4) 募集・広報活動

推薦、入学者選抜（学力による選抜）、在京外国人生徒等対象入試の応募倍率の向上を目標とし、高い倍率を維持している今年度の募集・広報活動の内容について、成果と課題について全校で検討し、結果を共有する。また、新入生アンケートを分析し、本校を志望した中学生、保護者の動向を確実に捉え、より効果的・効率的な募集活動に結びつける。ほとんどの本校志願者が、学校見学会、学校説明会の来校者であるため、全ての参加希望者に対応できる体制を構築するとともに、参加者から好評な在校生による説明を強化する。さらに、地域等、多くの人に竹台高の教育活動を伝えるため、竹台通信の内容を強化し、ホームページ等を最大限に活用し、積極的に外部への情報発信を行っていく。

(5) 健康・安全

校医と連携しながら、地域の感染状況等の情報収集に努めながら、感染症に対する対策を実施し、校内での感染症拡大を防ぐ対策を徹底する。学校は、生徒の命や健康を守り、安全・安心を最優先とする教育活動を行う場であり、その環境の維持、管理を強力に推進する。そのため、学校不適應や中途退学の未然防止及び自殺予防、SOSの出し方に関する指導や対策を強力に進め、スクールカウンセラーや校医、都立版エリアネットワークによる発達障害のある生徒支援事業等を活用した教育相談体制の強化に努め、生徒個々の状況の把握と一人一人に応じたきめ細かい指導、外部人材等を活用した校内における生徒の居場所づくりを引き続き推進する。防災教育や安全指導について、体験活動を重視しながら、災害や事故から身を守る方法についての指導を徹底する。熱中症防止に努め、熱中症予防情報や実際に暑さ指数を計測することで、確実に指針に従い、外での活動を禁止し、生徒の安全管理に努める。

(6) 特別活動・部活動

生徒会活動、委員会活動を活性化し、生徒の学校への帰属意識を高める。2大行事である、「体育祭」「若竹祭（文化祭）」において、それぞれの実行委員会が、計画、運営の主体となり、生徒が自分たちの力で大きな行事を成功させる経験を通じて、達成感や自己肯定感を得られるよう、指導を行う。特に体育祭は、今年度、熱中症の危険を回避するため、冷房の効いた大きな体育館での開催となったが、体育館内では、できることが制限されるため、今までの競技種目の内、実施できないものがあった。そのため、今年度の経験を活かし、体育館という場所での新たな体育祭を作り上げるための計画づくりを進めている。オリンピック・パラリンピック教育による学校レガシーと、在京入試枠設置校としての特色を生かし、多様性を尊重することの大切さについて理解を深め、「豊かな国際感覚」の醸成を図る。様々な個性を有する生徒が在籍している本校において、「共に学び 共に進む」という校訓の精神の涵養に努め、互いに尊重し合い、友となり、共に歩いて行く学校づくりを推進する。

(7) 地域連携の充実

生徒の安全・安心を十分に担保しながら、地域との連携を図ることで、地域に理解され、貢献できる学校を目指す。学校情報を積極的に発信し、地域の方々が、「竹台高はこんな学校」と答えてもらえるような、地域に根差した学校づくりを行う。今年度も実施したように、来年度も東日暮里5丁目町会の方々と一緒に近隣地区の清掃活動を行い、地域貢献の大切さや社会に生きることの大切さを体験させたい。引き続き、近隣の消防・水道局、荒川区防災課等の関連部局との連携を充実させていく。

(8) 学校運営・組織

学校課題を全校で共有することで、取り組むべき方向を明確にし、全体で課題解決に取り組む体制づくりを行う。課題解決につながる東京都教育委員会の指定や支援を積極的に受

け入れ、学校の活性化を図るとともに、さらに各教員の教育活動が充実・発展するような取り組みを積極的に推進する。法令・規則等に基づく組織的な学校運営を継続し、服務事故の根絶、会議時間の短縮、会議資料のデジタル化、ペーパーレス化、オンライン会議の導入などを通じて、効率化、合理化、省資源化を進め、ライフ・ワーク・バランスの充実に取り組む。